

やまがら

日本から、移動・待ち時間・乗り継ぎ、そして何より 13 時間ものフライト時間を合わせて約 24 時間経つが、日付は変わらず時間は巻き戻っている。16 時間の時差と、空港の職員、雰囲気、壁紙、トイレ、規模、その全てに人生で初めてのアメリカを感じた。2025 IUFRO Small Scale Forestry and Extension and Knowledge Exchange Joint Conference はアメリカ合衆国ワシントン州シアトル北方の都市エバレットで開催された。

お湯の出ないシャワー、点かない電気、広大なホームセンター、深夜ごとに響くバトカーの音、食べ物の味付けなどアメリカという国の日本と比べてやや

いいかげんな風土を感じつつ、緊張と不安を感じながら初めての国際学会に参加した。参加者は、アメリカ人

のほかにも、ポルトガル、ノルウェー、ドイツ、エストニア、ネパールなど様々な国々からであったが、誰もが気さくに森林、各國のことを議論し、教えてくれたことは非常に嬉しかった。

私の拙い英語能力によれば、自國の森林資源の利用方法や管理保護の活動、制度の事例報告が多くかったように感じる。その一方で理解の難しい概念である歐州の Social Milieu、アメリカの山火事、Forester と Forager の関係など各国独自の事象も印象的だった。近世日本の木材流送をテーマとした私の報告は、内容はともかくとして私自身が川を流れる動画が世界共通でウケるものであることを確認できた。

学会の 2 日目と、4 日目以降に開催されたツアーやでは、個人の森林所有者や林業協業体の活動を見るとともに、Snoqualmie Falls や Mount Rainier、Mount St. Helens 等の有名な国立公

園を見学した。特に、霧が晴れ、雲海の上に建つ宿 Paradise Inn から見た、朝焼けの Mount Rainier は圧巻であった。夏でも残る氷河、樹木、動物、森林限界の先の景色、それら全てが人生で最高の景色であったと言っても過言ではない。とにかくスケールの違う広大な自然、巨大な樹木には心を奪われてしまった。

そして、何より今回の学会中に心に残った言葉は「WOOD IS GOOD」という言葉だ。ツアーの最後に訪問した Cowlitz Ridge Tree Farm でいただいたステッカーシールに記されていた。アメリカらしいシンプルで力強い言葉であるが、全世界に共通する言葉だと私は感じる。アメリカの広大な土地で行われる大規模林業では、日本に見られる、川上から川下への意識、災害や周辺住民への配慮に

関しては楽天的過ぎるとも感じる。その一方で、代々守られてきた、美しい木や森林、山への「愛」だと感じる。実際に、見学をした森林所有者達は、皆が自分の持つ森林の歴史や情報をボードにまとめて紹介しており、そこには自分達が所有し、守り続けてきた森林への誇りと愛を感じた。

また、国立公園の美しい景観の維持、英語が不得意で知識の浅い私にも、誰もが丁寧に教えてくれた優しさの根底には、楽天的な性格だからこそ人の温かみ、自分達の木の良さを広め共有したい「WOOD IS GOOD」の精神があると感じる。つまり、少子高齢化に伴い、林業従事者の減少が問題視される世の中で、大切なことは複雑な制度や目標の設定ではなく、「WOOD IS GOOD」だとアメリカは教えてくれた。

(林の陽輝)

WOOD IS GOOD !